

「人生の目的」

平成27年11月20日

もう後、6か月すると年齢も72歳を迎えます。振り返ってみるとあつと言う間だ、みなさんは「生きる目的」は何か考えたことがあるでしょうか。幼い時、小学生、中学生、高校生、大学と「将来自分は何々になりたいと」夢をもって生きようと、誰もそう思ってきたでしょう。

しかし、強く願ったとしても、そのとおりに人生を歩める人はほとんどいません。どちらかというと、人生は失望の連続です。

私も小学3年生のとき電気にあこがれました。ラジオもその時組み立てました、



小学3年生

しかし、大学入試の当日電車の中である本を読んでいて、これからは鉄鋼の時代だと書いてあるのが目に留まりました。当時日本も鉄鋼の生産量が増加し、その尺度が日本の将来を予想していました。そのとき好きだった電気から第一志望を金属に替え第二志望を電気を受験しました。試験当日志望を記入することが出来たのです。そうしたものでふとしたことで考え方が変わることもあります。なかには父親がしていた仕事(家業)を仕方なく継いだ人もいますでしょう。

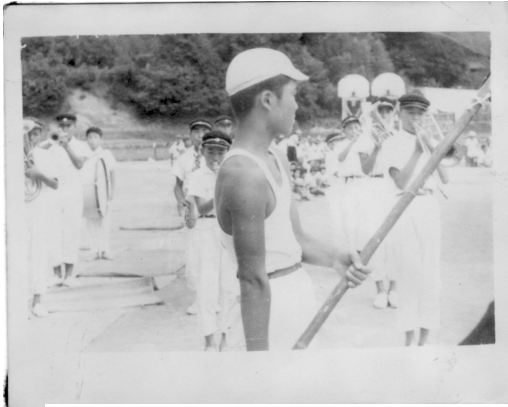
自分が思った方向にいったとしても、こんなはずではなかったと思いきらめた人もいますでしょう。やり

たいと思ったことが、ほとんどかなえられないのが現実です。

思い通りにいったとしても相当の努力があって成し遂げられるのです。例えばプロ野球の選手などはずっと健康であれば別ですが、夢がかなうのはほんの限られた何万分の一、いや何百万分の一の人です。

みんなどこかで妥協しながら、生きているのです。夢をもっていきること大切ですが、何度も挑戦して苦勞して実現することも大切です。しかし、いつまでも追いつけて一生を終えることになるかもしれないことを考え、思い切って別の道を探すのも大事です。

あなたは「人生の目的は」と聞かれたら、幸せになることだと答えるでしょう。幸せとはどういうことですかと聞いたら、お金持ちになって好きに暮らしたい。あるいは政治家になりたい、人のために尽くしたい、有名になりたい、



中学校3年 生徒会長時代

自分の家族が幸せで、健康であることなど様々でしょう。必要なことは、自分の人生の目的と、普段の生き方をどう結び付けるかでこれが合致しないと不満を感じたりして、幸せにはなれません。生きる目的は「自分の生涯を貫く信念」です。

お金持ちになるのは、生きる目的ではなく、ある時点の、状態です。何をして金持ちになるかが大切です。

地位や名誉もお金と同じことです。

株でお金持ちになると、ある事業を起こして、自分の夢をかなえることは大きな違いです。

人を助けたいために自分が情熱を持って、あることの研究を積み重ねる人、それぞれ夢を持って出来る人、つまりそういう人は「自分で楽しみながら仕事が」できる。それが先ほど言った普段の生活と人生の目的を結びつけることなのです。その人は仕事と言わず趣味や遊びと考えているかもしれません。

しかたなく親の後を継いで家業に専念して立派な技術をもってイキイキと仕事に打ち込んでいる人も多くいます。

そういう人は人生の目的を見つけた人で、生きる意味を見出しそれが何であれ、誇りをもって生きることです。中にはやれなくてやめた人も多くいるかもしれません。自分が、「やる気がしない」ものに無理にする必要もありません。

自分がこれだというものを自分で探すことです。人と人との繋がりによって見つけるものもあるでしょう。しかたなくやっているうちにできるようになったり、見つかることも多いものです。

起業家の中でもそうした中で自分の生きる目的を見つけている人が多いものです。はじめから、これだと思える人は殆どいないといっても過言ではないのです。自分になりたいと思って職に就いた人は少ないかもしれません。

起業家のなかでも、何か人の役に立つことはないかと、やっているうちに思いついたり、考えてやったことが生涯の大きな仕事となったケースなど、成功体験で思いがけないことに出くわすようなものがほとんどです。

仕事や職場など組織の中では人間関係が大切です。人間関係が難しいのは、努力しても結果に結びつかないからです。努力してもかえって嫌われたりする

こともあります。

人間関係には「好き嫌い」が絡むからです。「好き」と「嫌い」は、感情の世界のことで、もめごとが起きやすいのです。幸せに生きようと思えば人間関係を上手く保つことです。

人間関係がうまくいっている時は安心感を持ちます。逆に仲間外れにされたと感じたら不安や、恐れで夜も寝むれないという人もいます。人間の生存本能と感情です。

猿などの動物の世界でも同じです。ボスが支配し仲間外れにされると見えないうところへ行って死んでしまうそうです。人間の場合も学校や会社でのいじめで自殺が起きるのです。その対応をどうすれば良いのか冷静に考えるとわかるのですが、人間追いつめられると、その余裕がなくなります。

つまりこの世の中は人と人との繋がりです。誰かに受け入れられることは人にとって大事なのです。人間も一人では生きられないのです。誰かの世話にならなければなりません。家族がお互いを尊重し、愛情でつながること、愛にあふれる家族が生まれたとき、自分の心は喜びで一杯です。まさしく、自分の人生の目的そのものです。

会社でも家庭でも笑顔であいさつするのが自然です。職場でも「ありがとう」という言葉が自然に出てくる会社はうまくいっています。電話でも必ず「有難うございます 会社」です。と対応していませんでしたか。

同じことで話もしたことがない人など、深くない人間関係の人に挨拶されることは悪い気はしないものです。

人間親から生まれ両親に育てられ、祖父母、兄弟、友人、仕事関係、地域の人々に影響されながら「人生というものはこういうものだ」と思い込み、自然に行動するようになっていきます。育てられた環境によっても人それぞれ違うものです。

今までに培われたものを生かしながらいまうまく人との繋がりを大切にしていける以外にありません。また、魅力的で素晴らしい人と、出会えることも大切です。自分を癒してくれる友達を持つことも素晴らしいことです。それが自分を取り巻く社会そのものです。

そんな人はいないという人は両親や兄弟はどうでしょうか、家庭にあって愛情はなく育ってきたのでしょうか、

自ら社会にあって他の人と協調してこなかったとしたら、これから自分で努力してみてもどうでしょうか。もし、万一そういう人がいたら助けてあげてはどうでしょう。「家族愛」、「郷土愛」、「祖国愛」、「人類愛」どれが欠けてもいけません。この中で祖国愛というのは「愛国心」というイメージではなく、自国の文化、伝統、情緒、自然といったものをこよなく愛することです。「愛国心」

は普通良いイメージでは使われません。昔は親から言い聞かされませんでしたか。「大きいものが小さい者を殴ってはいかん」「大勢で一人をやっつけてはいかん」「男が女を殴ってはいかん」「武器を手にしてはいかん」「相手が泣いたり謝ったりしたら、すぐやめなくてはいかん」と言われました。今はそんなことを言って聞かせる親もいません。見て見ぬふりをしています昔ならそんな人は生きている価値がないくらいで、身を躍らせて助けに行きました。日本の風土というのか大袈裟に言えば武士道に似た精神が壊れてしまったように思われます。

幸せとはお金持ちになり自由奔放に生きたい。誰も一応に思うことでしょうが、普通最低限の生活は日本にいればできます。ただ、生活必需品だけでなく、電化製品や車、旅行にも行きたい、いくら金があっても足りません。人間の欲です。今では携帯電話やスマートフォン、車など昔、誰がそんなものを持てると想像したでしょう。仲間外れにならないためにと我先にと今や当たり前になっているのです。

お金の流れを信頼することです。自分の仕事や将来性について自分でわかるものです。50代にもなれば子供の高校、大学、親の介護など出費がかさみまず、60代になれば自分の老後のことなど、ほとんどの人がお金に振りまわされているのです。お金を稼ぐより、使う方が多くなるからです。自分のお金の器を冷静に見極めた人が、幸せになれるといわれています。高給取りになれば、出費もふえます。高いマンションを購入、嗜好品、アクセサリ、化粧品、あげくの果てにはギャンブル、よくある話ですが多くのお金を持つ資産家が子供に生前贈与しました。そのお金で、数年後にはもらった倍もの借金を抱え込む、ひいては自分の家族の人生まで奪うことになる。お金は「稼ぐ」「使う」「守る」「増やす」四つのことを上手く調整する、つまりお金の流れ（四つのこと）に感謝することなのです。他人のことを気にせず自分が持っている器に応じた生活することなのです。決してお金持ちが幸せとは限りません。

仕事も同じです。楽しい仕事と苦しい仕事、楽しい仕事は自分に合っている仕事です。面白くない仕事、苦しい仕事は社会のためにもなりません。なぜなら、仕方なしにやっているだけでその人に合わなければ成果が表れません。

考えただけで胃が痛くなると言う人もいます。

逆に自分に合う仕事は、自動的に才能を開花させていきます。本人は仕事をしているというより遊んでいる感覚です。誰でも経験があると思いますが自分で没頭して仕事をしていたらもうこんな時間になってしまったということはよくあることです。充実度や仕事の結果も大きく差が出るのです。

どんな会社でも自分がやりたい仕事があるはずですが、ぜひ、自分に合っていないと思ったら自ら進言してみてもはどうでしょうか、変わってみて合わなけれ

ば、また、変われば良いのです。5～6回変わってやっと落ち着いた人（見違える力を発揮する人）など多くいます。自ら見つけることです。自分が楽しいと思える仕事、つまり才能を伸ばすことが出来ることです。そのとき充実感がわいて素晴らしい人生が送れるはずです。

人間70歳に近くなってもやり残したことが多いことです。こうすればよかった、あれがしてみたかった。数えればきりがありません。結局は本当に楽しくやったのでなく、仕方なく妥協してきたのかもしれない。

もう一つ忘れてならないのは健康であることです。「健康でいる」時には病気になることは普通考えません。病気になってはじめて気づき悔やむのです。入院して、働くことが出来なくなってから、後悔しても遅いのです。

ある日突然倒れて、そのまま亡くなるケースもあります。一方、不摂生が原因で、病気になる人もたくさんいます。普段から健康に気を付ければ、病気は避けられるかもしれません。私も42歳のとき突然倒れました。救急車で運ばれ生きるか死ぬかの病気にもなりました。その宿命にあったのかもしれない。一つは自らの不摂生も一つの原因、一つは職種や仕事の仕方にあったかもしれません。自分の健康は自分で考えて、生活スタイルを変えてできることがあるはずです。

もう一つは心の健康です。若いころ、精神にバランスを崩した人は、その後、気を付けて自分の心と向き合うようにすることで、思いがけなく幸せな人生を送る人もいます。心の病は早く専門医に行くことです。一方、自分の心に全く無関心で頑張ってきた人は突然自分の心が壊れ、初めて無理を続けてきたことに気づきます。

その時には、体調まで崩してしまうことも多く、そこから元の状態に戻るには時間がかかります。

普段から、自分の心と向き合う癖をつけておきたいものです。自分が病気になって初めて「なぜ自分は病気になったのだろうか」自問自答してしまいます。自分を責めるような答えしか引き出せません。

時間が過ぎ感情的な落ち着きを取り戻したとき病気になったおかげで、人に対する優しさや、周囲や自分を取り巻く人に対し、また自分よりも大変な状況にいる人にも気づかされ、自分の経験が、家族の絆も深まったり、そして人間的な深さも感じるようになります。病気によって自分の体の限界を知るようになり、自分が健康という資産をどう維持するか考えるようになります。健康であることは大切な資産なのです。

あと気になる事といえば、そもそも小学生で英語を勉強していることです。国際社会といえはすぐ「英語」となるのですが、国際人と英語は直接関係しま

せん。国際人とは、世界に出て、人間として尊敬されるような人になる事です。小学校でいくら英語を教えたところで国際人になれるわけでもありません。たとえ週に何十時間教えても何の足しにもなりません。

少しは話せるようになるかもしれませんが、しゃべれないよりは良いかもしれませんが、何の足しにもなりません。

それよりもっと大切な日本人の持つ創造力など勉強し祖国語ができないのに何とも馬鹿げたことです。数学であるとか理科、社会など昔からの日本について祖国をもっと大切にするとか人間としての教育など幼い時にやるべきことはたくさんあります。多くの企業も世界に進出し、今や200万人もの人が海外で生活していますが、別に英語を話さなくても必要に迫ってくれば、みな勉強して話せるようになります。会社の同僚も多くいますが同じことです。日本人は日常生活で英語をなんら必要としないからです。母国語だけで済むというのは日本が植民地にならなかったからでむしろ名誉なことです。私の子供も大学生になってカナダに留学しました。日本人のいないところで生活しましたから、英語を話せるようになりました。英語が目的でなく日本と外国の違いなどあらゆることを経験し性格も別人のように変わっていました。

今日本の教育で国語、数学、理科、社会など先ほど書いたように創造力や情緒ゆたかな能力や人間としてのスケールを大きくすることです。日本の教育も遅れていて東大も世界から見れば二十数番目に入っています。

社会人となったとき今企業でも英語が話せるかどうかは参考程度に聞きますが、それよりもっと人間的にどうか、どんな能力や創造性があるかなどが大切です。総理大臣経験者や大臣が失言を繰り返し、漢字も読めない母国語も使えません国際人には程遠い状況です。自分ができないから小さいときから「英語を教える」と考えるのかもしれませんが、国際人と英語は結びつきませんはっきりと間違った考えだと思います。

私の育った環境は親父が学校の先生でした。小さい時から勉強ができて当たり前、先生の子だからと世間は言っていました。それは自分には一番嫌でした。4人兄弟の次男一番上が姉でした。兄弟4人すべてが大学に行きました。親もよくここまで教育してくれたと思います。

大学を卒業するときは昭和42年で佐藤栄作首相の時代、戦後一番の就職難の時代で大学の先生から大学院に進学するよう勧められ京都大学工学部大学院に受験し受かりましたが、兄弟4人もいましたから教育費からしても同じように大学に親は行かそうと思っていたから一人だけ高等な教育をさせるわけにいかないためあきらめざるを得ませんでした。しかし、社会人になって、株式会社 キタガワ の会長 故北川實夫氏（親戚）があらゆる部署を経験させいろいろなところで勉強をさせてもらいました。おかげでいろんなことがわか

るようになりました。社外の人も多く知ることできました。

長年社員教育の仕事に携わってきました。そんな中で「できる人」「できない人」では、それぞれ仕事の仕方にはっきり特徴があるということです。「仕事の効率が悪く」「期待通りのアウトプットができない人」は典型的な「できない人」。「できる人」は「期待どおり、それ以上のアウトプットが出せる」「仕事が効率的で早い」という能力を持っています。

その差を生むのは一つの要因として、仕事の全体像を把握したうえで、仕事ができているかということです。仕事の目的や全体像・結果から自分の仕事をする役割を理解しているかどうかなのです。人は、指示されて働くより、ある程度裁量を持って自分で考え実行するほうが、やりがいや面白みを感じることができます。組織の歯車というとあまりいい意味に使われない表現ですが、実際のところ仕事は一人で完結しません。組織で働く以上、何かしらの役目を担う。歯車になるのは当然のこと。ただし、私はこの歯車にも二種類あると思います。「回れと言われたから、とにかく回る」という指示待ち歯車と、「自分が回ることにより充実した仕事の質が可能になる」と自らの意志で回っている自立型歯車です。

目的達成能力の高い人は、良好な人間関係をつくる力も優れています。仕事を頼むときのお願いの仕方もうまい。まず「何のために」働いてもらいたいかを示し、具体的にしてもらいたい行動を話します。そして最後に、「その行動でどんなメリットが生じるか」を伝えます。

できない人は、これの真逆の行動をします。指示を受けると、全体像をつかまないままとりあえずやみくもに動きます。そして無計画がたり、締め切りギリギリで慌てることに。そしてこの段階になってやっと周りに助けを求めます。急に仕事を振られた相手にとっては、迷惑千万です。

仕事によっては上司を巻き込むことも必要です。そのために上司にも嫌われず、信頼されることが重要です。できる人は目の前に起きたこと、その先の目的達成のためにどういう対応が適切か瞬時に考えます。そして仕事の成果を出し、上司の信頼を集めていきます。こういう人には「君なら安心だ。任せるよ」と仕事のチャンスが巡ってくるので、結果、出世も早いのです。

最近「終活」という言葉を耳にすることが増えました。人生の最期にむけた準備活動のことで、真の遺暦を迎えたら、やはり自分の死について考えたほうがいいでしょう。その際思い出したいのが、私は仏教について詳しくありませんが、仏典の「無量寿経」にある「独り生まれ、独り死し、独り去り、独り来る」という言葉です。

結局、人間というものは一人で生まれてきて、一人で死んでいくものなのだ

ということを教えてください。

私たちは、生まれた時から死に向かって生きてきました。もちろん、これからもずっと一人です。

人間は誰もが必ず死を迎えなければなりません。「生老病死」 100%死はおとずれます。

そうした中で人生を生きるためには、少しでも充実した人生「人生の質」・「人間としての質」クオリティー オブ ライフを求めて生きたいものです。人間として生きるには、人としての関わり合い（ひとのあいだと書いて人間）つながりがあってはじめて成り立つものです。

優秀なお医者さんや企業に勤める多くの技術者達は日曜、祭日は考えません。お医者さんは人の命を救おうと思えばその手当のため休日はありません。優秀な社員のいる企業では休日も技術向上のため自ら研究・勉強をしています。だからと言って休日は無報酬がほとんどです。

「死とはどういうものなのか、自分がどう死んでいきたいのかが決まっていれば、いざというときに慌てずにすみます。心に余裕が生まれ、穏やかに過ごせるのです。」(順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授 樋野興夫師)

そんなお金は出せないからで、別に労働基準法に違反だとその人は言いませんし、むしろ自己研鑽のためです。自ら充実した人生を送ろうとしているからです。

人生は人間としてその人の生きざま社会のためにどう尽くすかなのです。「人間の質」、戦後の教育でそうしたことは失われ、我さえ良ければ、の考えが広く行き渡り人間性が失われました。昔からの日本の武士道的精神、昔の村長は我が財産を投げうって道や橋を作ったりもしましたが、そうした精神は失われてしまいました。農業法人に携わって気が付きました。ボランティアの精神の意味がほとんど理解できないそうした世代の人たちばかりです。つまり地域を良くし、人とのつながりを大切にする。ほとんどの人が考えてないのが現状です。42歳の時、心臓病で倒れ生死を考えました。7回も救急車にお世話になりました。

つまり人生はお金や地位ではないのです。多くの人は年をとって死を迎えたとき気づくのです。また、今元気だから死など思いもよらないことで、自分の人生についてどう生きるかも考えたことはないと思います。しかし、いざ死を迎えたときに自分の人生の間違いに気づくのだと思います。もし気づかないとしたらその人の人生は空しいものです。

私も心臓病になり、おそらく死を医師から覚悟しなければならないくらいの経験がなかったらこんな偉そうなことは言えないまま過ごしていたと思います。

優秀な企業ほど自分の人生観を持ち合わせた人が多くいます。こうした田舎

に帰って自分自身が異様に思えました。少しでもお金がほしい、ボランティアはいやだ。つまり目先の欲だけにとらわれ、それぞれ自分が人間としての勉強（学校の勉強ではなく）しようとしなさい。

自らそうした挑戦を考えない人（人間として生きる目的がない）が田舎では多いのだと思います。言い換えれば勉強もでき人間的にも優秀な人は私たちの時代には都会へと出て行ってしまいました。田舎へ残ったのは全体の1割にも満たない人数で高校時代は進学組と就職組に分かれていましたが田舎へ残ったのは就職組でした。

「まことに小さな国が、衰退期をむかえようとしている」私たちはおそらく、いま、先を急ぐのではなく、ここに踏みとどまって、三つの種類の寂しさを、がっちりと受け止め、受け入れなければならないのだと思っています。

一つは、日本はもはや工業立国ではないということ。もう一つは、もはや、この国は、成長はせず、長い衰退の戦いを戦っていかねばならないのだということ。そして最後の一つは、日本という国は、もはやアジア唯一の先進国ではないということ。日本経済の衰退が避けられないのなら、それとどう折り合いをつけるべきか。そして、どのようにして長い後退戦を戦いぬいていけばいいのか戦略・戦術が問われているのです。政治ではアベノミクスや一億総活躍社会などと唱えているがそんなまやかしでは済まされない。もっと根本的な深い問題がある。（金融緩和で株価を上げたり円安に誘導したりの問題でもない。

また、赤字国債を発行して国の財政に充てたり目先のこう薬では問題も解決はできない。）

会社では入社試験で選ばれ考え方や教育された優秀な人材の中で、さらに上を目指せば試験の連続で競争社会です。私自身も入社して数年後大不況で3か月余は無報酬で働きました。なんとかして会社の業績向上のため同僚たちと頑張ったものです。人のつながり（信頼）やサービス精神を持ち合わせた会社が生き残っています。人間として生きる目的を持ちたいものです。

幸福とはなんだろう。経済的余裕があれば、幸福だと考える人もいよう。しかし、貯蓄がいくらあっても、人間はさらにお金を求め、欲は際限なく膨らむ。欲求が止まらない状態が続く限り、幸福にはなれないだろう。

シューベンハウアー